

令和 6 年度東北大学病院総合防災訓練に外部評価者として参加しました (2024/11/1)

テーマ：CBRNE 災害、除染、多数傷病者受け入れ
会場：東北大学病院（宮城県仙台市）

2024 年 11 月 1 日（金）、宮城県仙台市の東北大学病院で令和 6 年度総合防災訓練が実施され、当研究所の佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が、新潟大学高橋昌志教授とともに、外部評価者として訓練に参加しました。

東北大学病院では毎年秋に、様々な災害を想定した総合防災訓練を実施し、有事にも迅速・効果的な活動ができるよう、訓練を繰り返しています。今年度は、仙台市中心部において有害物質を含む爆発事案が発生し多数傷病者が発生した CBRNE（C:化学、B:生物、R:放射性物質、N:核、E:爆発物）災害を想定し訓練を実施しました。CBRNE 災害を想定した実動訓練は、コロナ禍前の 2019 年以來、5 年ぶりとなります。

日本では地震や台風などによる自然災害が多く、対策や訓練も進められてきましたが、人為災害、とくにテロ事案の経験はほとんどありません。しかし発災可能性は決してゼロではなく、事案を想定し訓練を行っておくことはとても重要です。人為災害対応の難しさは、地震などと異なり関係者全員がいつきに災害発生を覚知できない、発災初期には原因（物質）が不明で被害の拡がりかわからない、という点にあります。そのため、災害対応のスイッチをどのように入れていくか、どのように情報共有を図るかが鍵となります。また対応に当たる病院職員の安全確保や除染も重要な課題です。

災害対策本部では、消防や行政から入る情報、また病院から収集していく情報を統合・整理し、どのような情報を職員や家族・社会に発信することがパニックを引き起こさず有益となるかの検討、また現場では個人防護具・特殊マスクなどを装着し自らの安全を確保しつつ除染・救護活動に当たる訓練等が実施されました。佐々木准教授は災害対策本部訓練の評価者として、病院長をトップとするチームビルディング、安全確保、情報収集・共有、方針決定といった観点から訓練評価を行い、本部内での情報処理過程・病院の機能継続にかかる情報発信のあり方等について講評を行いました。



病院長等幹部も協力し災害対策本部のレイアウトを完成



アクションカードを見ながら実施すべきことを確認する病院長と副病院長



災害対策本部会議で情報を共有し今後の方針を確認



病院長等幹部を前に講評に臨む佐々木准教授ら